施設関係者評価実施報告書

令和 2年 3月 30 日

報告者氏名　　菊地 弘子

評価者氏名　　菊地 芳子

①全体評価

・全体にとてもよく子供たちを見てもらっていると感じる。 ・子供たちの様子を記録したドキュメントが増えて、生活の様子がわかり、うれしい。 ・園での子供たちの様子が当日に玄関への掲示されることが増え、またバス通園の家庭にはカラー 印刷して配布するなど細やかな心配りを感じる。 ・小学校への洪水を想定した避難訓練は、地域性を考慮した素晴らしいものである。

②学校評価の個別評価

＜教育課程・指導＞
園全体の計画に基づき、細かく計画や見直しがなされている。
＜保健管理（衛生面、健康面など）＞
園児の観察や保護者へとのやり取りが緊密にできている。
＜安全管理（避難訓練、安全点検など）＞
実施記録や点検簿等において安全面の管理が実施されている。特に小学校への洪水想定の避難訓練は今後も続けていってほしい。
＜特別支援教育（個別発達状況、特別支援学校との連携など）＞
支援学校の職員や地域拠点病院の作業療法士による研修、指導の機会を設け、個別の発達支援に取り組んでいる。、
＜組織運営＞
園務分掌により、職員一人一人の担当や研修領域が明確になっている。
＜研修（資質向上の取組）＞
研修日数が多く、質の向上への取り組みが感じられる。
＜教育目標・学校評価＞
園の目標に沿って、各自の自己評価を数値化し、改善に役立てている。
＜情報提供（保護者向けたより、ホームページ等）＞
園での様子がよくわかり、安心できる。子育て支援に関しては広報やホームページで周知されている。
＜保護者・地域住民との連携＞
園行事の際の騒音や車の往来など事前に文書を出しながら、運営への理解をいただいている。 園児の活動に際し、田植え、食育活動、施設慰問など連携を取りながら進めている。
＜子育て支援（拠点事業、相談など）＞
週5日の支援室開設やイベントを中心とした子育て家庭への支援に取り組んでいる。 土曜日にパパと遊ぶ企画を提案している。
＜預かり保育＞
1号認定児への午後の預かりを実施している。
＜教育環境整備（遊具、保育室、園庭など）＞
空気清浄機や備品のメンテナンス、補修等設備面は用務員、植物栽培や自然環境整備は主幹保育教諭が中心となって行っている。

③その他必要な評価

＜食育（給食、栽培など）＞
完全給食の実施、栽培、収穫などの一連の体験活動を通して、取り組んでいる。
＜養護（SIDSなど）＞
観点を明らかにして0才5分毎、1才10分ごとのチェック表を作成している。
＜苦情解決（掲示、記録など）＞
仕組みについて園内に掲示し、周知を図っている。記録も残されており、改善に役立てている。

④課題と検討

・園庭の低い固定遊具について、今のところ大きなけがはないが、接地面がコンクリートなのでけがの防止のための工夫を検討してほしい。 ・園庭の樹は夏場の木陰になり、とてもよい環境だと思うので、大切にしていってほしい。

保護者代表　今村恵里香　大石なつみ　菊地祐里子　斉藤泰江　染谷真実　平川晃子

令和元年度 施設関係者評価　会議

令和２年３月１９日（木）１８：３０～１９：００

<目　的>

保育者の自己評価、園の自己評価をもとに、現状に対する共通理解を図り管理面、運営面等の改善協力を促進する。

★自己評価について　　保育総合研究会監修「自己チェックリスト」による

◎自己評価の実施状況

2010～　保育所保育指針に基づく評価を実施

2015～　幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づく評価を実施

2018～　「平成 30 年度施行幼保連携型認定こども園新教育・保育要領」に基づく評価を実施

1. 今年度の自己評価：　年２回（８月・１月）実施

８月は前期の振り返りを行い、達成度や課題の確認を行った。

１月は年間を通した振り返りを行い、クラス運営、園全体、次年度への課題を明らかにした。

①保育関係 18（園長・支援担当含む）

100 項目についての評価方法（十分している・している・少しはしている・していない）

個々のデータを園全体の集計に反映させた結果、「十分している」および「している」の数値は以下の通り

Ⅰ	園の基本姿勢について	91%	（　前年 91%　）
Ⅱ	教育保育要領理解と実践		
	総則	76%	（　前年 72%　）
	内容・配慮事項	76%	（　前年 65%　）
	健康安全	81%	（　前年 81%　）
	子育ての支援	77%	（　前年 70%　）
Ⅲ	独自の取り組み	75%	（　前年 70%　）

②給食関係４　　１５０項目

③看護・支援　　１００項目のうちの該当部分のみ

2．園の自己評価：

①保護者とのコミュニケーション

前年度の保護者アンケートに基づき、すべての意見に対して職員間での話し合いを行った。手法や見通しについての統計とすべての意見に対する回答を行い、公表（園内掲示&4月保護者会での報告）し、改善に取り組んだ。また、夏のちびっこ祭りについては、平日夕方への延期となり、改めてご意見を頂戴した。具体的な提案もあり、設定日、予備日について次年度への良い手がかりを得たと感じている。本年度も引き続き運営状況についてのアンケートを年度末に実施し、改善に生かしていく。

②園の組織化と保育の質の向上

幼保連携型認定こども園となり、4年を経過する。今年も園務分掌に基づく外部研修を多く取り入れてきた（述べ 77 名）。国主導での保育者の質の向上を図る研修（キャリアアップ研修）が平日の開催がほとんどであった。主幹を中心に、安全安心を心掛けて取り組み、研修への参加者がそれぞれの知識、経験を蓄積し、共有できる部分が広がってきている。専門分野としての特化でなく、議論しあうことで職員間の共通認識の土台ができてくると考える。一つのテーマで全員で取り組んだ園内研修は、子供の可能性を期待していく上での大きな力となった。今後も続けていきたい。

③保健衛生

１月はノロウイルスによる感染症の拡大があった。初発をとらえることができなかったこと、および発症した際の兄弟の保育に関しては十分なことができなかったことを申し訳なく思う。2週間の対策強化により平常に戻ることができたのは、保護者の皆様にご協力いただけたおかげである。実務的な感染症対応は保健担当者（看護師）を中心に、今後もスムーズに対応できる体制づくりを図っていくことが必要である。今年は茨城県の感染症マニュアルを参考に、園の実情に合わせて新しいマニュアルを作成した。

④保育者は、日々実態把握、発達の見通し、教材の準備、実践、改善といった一連の流れを実践している。１２時間３０分の開所という枠組みの中で、労働時間や職務の見直し等についても少しずつ試みてきているが、定着には至っていない。より深い子供理解、子育ての支援のために、職種を超えたチームワークと相互理解を念頭に組織の運営を進めていきたい。